

2018 年

4/29

(日)

11:00~12:00

会場：日本モンキーセンター内
ビジターセンター

事前申し込み不要

入園料のみでご覧いただけます



■ 講演者プロフィール

京都大学理学部卒業、同大学院医学研究科修士課程修了、東京藝術大学大学院修了。博士（美術）。著書に『ヒトはなぜ絵を描くのか—芸術認知科学への招待』（岩波書店）ほか。『図書』（岩波書店）にエッセイ「ルビンのツボ」を連載中。

■ 問い合わせ

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26 公益財団法人日本モンキーセンター 電話 0568-61-2327

特別講演会

齋藤 亜矢先生

（京都造形芸術大学 文明哲学研究所・准教授）

「絵筆をもったチンパンジー…ヒトはなぜ絵を描くのか」

■ 主催 公益財団法人日本モンキーセンター

■ 共催 京都造形芸術大学 文明哲学研究所

■ 後援 愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会

■ 協力 京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

チンパンジー、ボノボ、ゴリラ、オランウータンなど、大型類人猿の絵が一同に会する霊長類アート展「PrimArt」が開かれます。大型類人猿の絵といっても、かれら「を」描いた絵ではなく、かれら「が」絵筆をもって描いた絵です。作品はそれぞれ個性的で、なかなかの力作ぞろい。作者をふせておいたら、有名な画家が描いたに違いないと思った人もいました。

芸術は、わたしたち人間を特徴づける行動の一つです。文字のない文化はあっても、芸術のない文化はありません。でもその行動がなぜ進化したのか、自然淘汰や性選択などのメカニズムでは、簡単に説明できそうにありません。ヒトはなぜ芸術を生みだし、芸術に魅了されるのでしょうか。進化の隣人であるチンパンジーと、ヒトの子どもたちに絵筆を握ってもらうことで、そのヒントが見えてきました。人類最古の洞窟壁画の話も交えながら、絵を描く心の生まれた背景についてお話しします。